図 3.1-33　動物の注目すべき生息地（海域）

(2) 植物の生育状況

1) 植物相及び植生の概要（陸域）

① 植物相

対象事業実施区域が位置する北九州市（小倉北区、戸畑区、若松区、門司区）における文献その他の資料による陸域の植物相の概要は、表 3.1-71 のとおりである。

シダ植物 103 種、種子植物 348 種、計 451 種が確認されている。

表 3.1-71　陸域の植物相の概要

分 類		既存資料による主な出現種
シダ植物		オニトウゲシバ、ヒメクラマゴケ、シナミズニラ、スギナ、オオハナワラビ、ゼンマイ、コウヤコケシノブ、コシダ、カニクサ、オオキジノオ等 103 種
種子植物	裸子植物	アカマツ、クロマツ、イヌマキ、イヌガヤ、カヤ 5 種
	被子植物	サネカズラ、フウトウカズラ、ヤブニッケイ、アオガシ、シバナ、カワツルモ、ヒナラン、クゲヌマラン、アケボノシュスラン、コケイラン、ツユクサ、ホシクサ、ヒゲスゲ、アカネスゲ、ダンチク、カゼクサ、ハチジョウススキ、メダケ、ツクシキケマン、ムベ、ナンテン、センニンソウ、ヒメウズ、タコノアシ、ヒナノキンチャク、コバノチョウセンエノキ、イヌビワ、ケナガバヤブマオ、ゲンカイヤブマオ、コアカソ、アオミズ、クリ、アカガシ、コナラ、イヌシデ、アカメガシワ、ヤマヤナギ、アゼオトギリ、ミズスギナ、ヤマハタザオ、オオバタネツケバナ、ハマダイコン、ハマサジ、ナガバノウナギツカミ、ハルタデ、アキノウナギツカミ、ミチヤナギ、ギシギシ、オランダミミナグサ、ツメクサ、サワハコベ、ヒメシロビユ、アオゲイトウ、シロザ、オカヒジキ、バイカウツギ、ハマボッス、ハマサオトメカズラ、フナバラソウ、コキクモ、ホトケノザ、ミカワタヌキモ、アサザ、ヨメナ、シマカンギク、ホソバオグルマ、モウコタンポポ、ヤドリフカノキ、ハクサンボク等 343 種
種子植物 計		348 種
総 計		451 種

1.「福岡県植物目録 第1巻（シダ植物）」（福岡植物研究会、昭和63年）
2.「北九州市の希少野生生物」（北九州市、平成20 年）
3.「福岡県植物目録　第2 巻」（福岡植物研究会、平成4年）
4.「自然環境調査Web-GIS（第4、6回巨樹・巨木林調査）」（環境省HP、平成5年、平成17年）
5.「福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2011　（植物群落・植物・哺乳類・鳥類）」（福岡県、平成23 年）
6.「指定文化財」（北九州市、令和6年9月閲覧）
7.「わたしたちの自然史　第123 号～第155 号」（北九州市自然史・歴史博物館自然史友の会、平成25 年～令和5年）
8.「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024－」（福岡県、令和7年）

より作成

② 植生

対象事業実施区域及びその周辺の現存植生図は、図 3.1-34 のとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺は、主に工場地帯、造成地、開放水域等となっており、一部に路傍・空地雑草群落、ゴルフ場・芝地等の草地、シイ・カシ二次林等の樹林地が分布している。

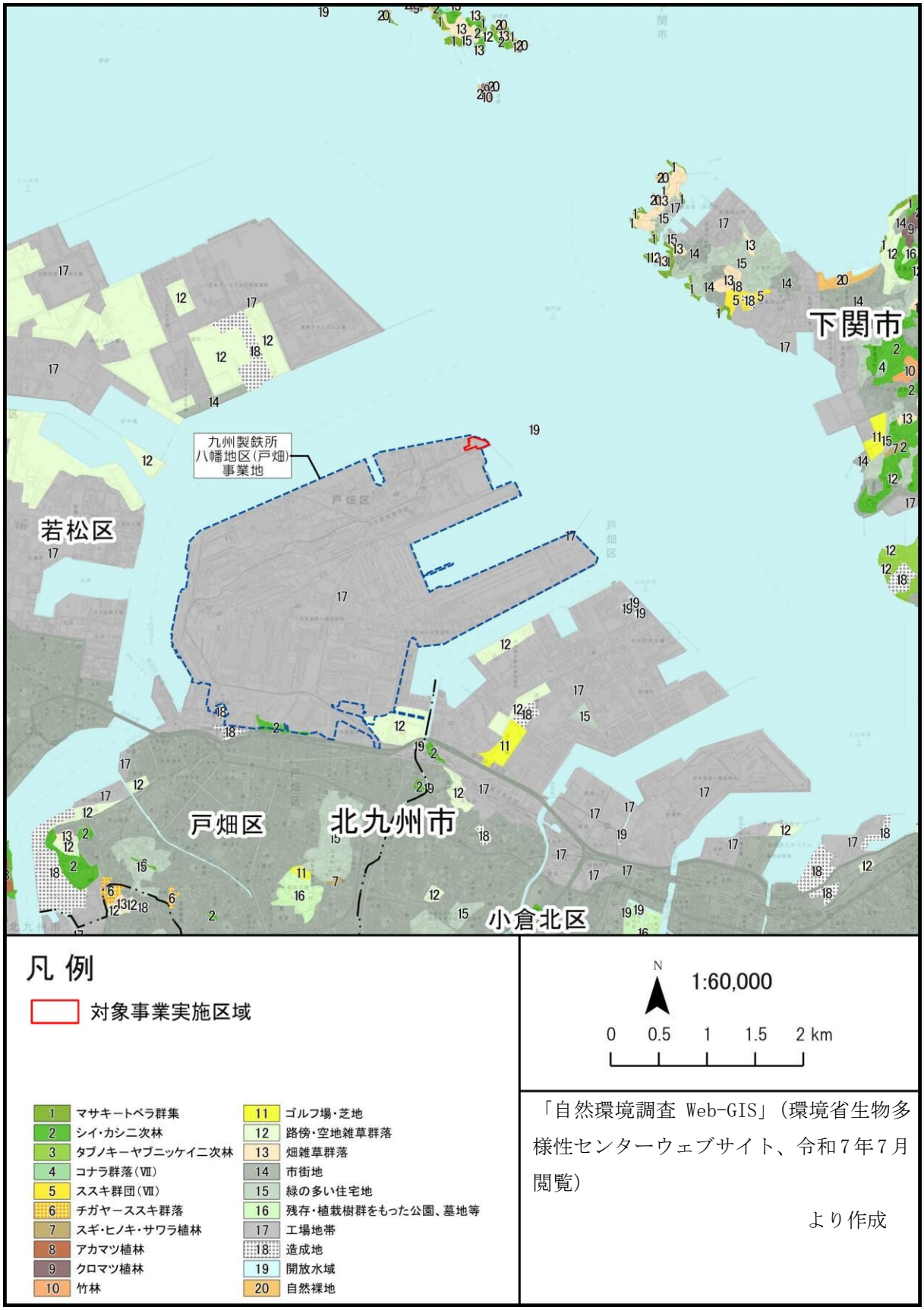
九州製鉄所
八幡地区(戸畑)
事業地
若松区
戸畑区
北九州市
小倉北区
下関市
凡 例
対象事業実施区域
1 マサキートベラ群集
2 シイ・カシ二次林
3 タブノキーヤブニッケイ二次林
4 コナラ群落(Ⅶ)
5 ススキ群団(Ⅶ)
6 チガヤーススキ群落
7 スギ・ヒノキ・サワラ植林
8 アカマツ植林
9 クロマツ植林
10 竹林
11 ゴルフ場・芝地
12 路傍・空地雑草群落
13 畑雑草群落
14 市街地
15 緑の多い住宅地
16 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
17 工場地帯
18 造成地
19 開放水域
20 自然裸地
N
1:60,000
0 0.5 1 1.5 2 km
「自然環境調査 Web-GIS」(環境省生物多様性センターウェブサイト、令和7年7月閲覧)
より作成

図 3.1-34　現存植生図

2) 重要な種及び重要な群落の概要（陸域）

① 重要な種

既存資料に記載されている確認種について、表 3.1-72 に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から重要な種を選定した。

重要な種は表 3.1-73 のとおりであり、対象事業実施区域及びその周辺において、シダ植物 6 種、種子植物 88 種が確認されている。

表 3.1-72　陸域の植物の重要な種及び重要な群落の選定根拠及びランク

選定根拠			参考文献等
全国	①「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）	・「文化財保護法」（昭和25年法律第214号） 「天然記念物緊急調査」（文化庁、昭和50年）
	②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際）	・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
	③「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧ⅠＡ類（CR） ・絶滅危惧ⅠＢ類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD）	・「第5次レッドリスト（植物・菌類）の 公表について」（環境省、令和7年）
	④「自然環境保全基礎調査」に取り上げられているもの	・特定植物群落（特定）	・「第2回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和54年） ・「第3回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和63年） ・「第5回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成12年）
	⑤植物群落に関する「データブック」に取り上げられているもの	・緊急に対策必要（ランク４） ・対策必要（ランク３） ・破壊の危惧（ランク２） ・要注意（ランク１）	・「植物群落レッドデータ・ブック」（我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会、平成8年）
福岡県	⑥「福岡県文化財保護条例」により指定されているもの	・県指定天然記念物（県天） ・市指定天然記念物（市天） ・学術上価値の高い生物群集及び生物	・「福岡県文化財保護条例」（昭和30年条例第25号） ・「北九州市文化財保護条例」（昭和45年条例第32号） ・「天然記念物緊急調査 40 福岡県」（文化庁、昭和52年）
	⑦「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」により指定されているもの	・指定希少野生動植物（指定）	・「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」（令和2年福岡県条例第42号）
	⑧「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024－」に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧ⅠＡ類（CR） ・絶滅危惧ⅠＢ類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD）	・「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024－」（福岡県、令和7年）
	⑨「自然環境保全基礎調査」に取り上げられている巨樹・巨木林	・巨樹・巨木林	・「第4回、第6回自然環境保全基礎調査　日本の巨樹、巨木林　九州、沖縄版」（環境省、平成5年、平成17年）

表 3.1-73(1)　重要な種（陸生植物）

No.	科名	種名	選定根拠					
			全　国			福岡県		
			①	②	③	⑥	⑦	⑧
1	ミズニラ科	シナミズニラ			VU			CR
2	イノモトソウ科	ミズワラビ（ヒメミズワラビ）						NT
3	チャセンシダ科	コタニワタリ						CR
4	ヒメシダ科	テツホシダ						EN
5	メシダ科	ミドリワラビ						VU
6	オシダ科	タチデンダ						EN
7	トチカガミ科	ムサシモ			EN			CR
8		ミズオオバコ			NT			EN
9	シバナ科	シバナ			NT			VU
10	ヒルムシロ科	センニンモ						EN
11		ヒロハノエビモ						CR
12		ツツイトモ			VU			CR
13		リュウノヒゲモ			NT			EN
14	カワツルモ科	カワツルモ			NT			EN
15	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ			NT			NT
16	ラン科	ヒナラン			VU			CR
17		シラン			NT			NT
18		キエビネ			VU			EN
19		ギンラン						VU
20		キンラン			NT			VU
21		クゲヌマラン			VU			CR
22		ユウシュンラン			NT			CR
23		ササバラン			VU			CR
24		タシロラン			NT			VU
25		ベニシュスラン						EN
26		アケボノシュスラン						NT
27		ムカゴソウ			VU			EN
28		ホクリクムヨウラン						CR
29		クモキリソウ						VU
30		ハツシマラン		国内	EN			EN
31		コケイラン						VU
32		ジンバイソウ						EN
33		マイサギソウ						CR
34		ヤマトキソウ						CR
35	ガマ科	ヤマトミクリ			NT			EN
36		ヒメミクリ			VU			CR
37	ホシクサ科	オオホシクサ						EN
38		ホシクサ						NT
39		ツクシクロイヌノヒゲ						VU
40	イグサ科	ヒロハノコウガイゼキショウ						CR
41		イヌイ						EX
42		ドロイ						EX
43	カヤツリグサ科	ダイセンスゲ						EN
44		ヤガミスゲ						VU
45		キノクニスゲ			NT			NT
46		アカネスゲ			VU			CR
47		ツクシナルコ			EN			NT
48		スジヌマハリイ			VU			CR

表 3.1-73(2)　重要な種（陸生植物）

No.	科名	種名	選定根拠					
			全　国			福岡県		
			①	②	③	⑥	⑦	⑧
49	イネ科	ヒナザサ			NT			VU
50	メギ科	バイカイカリソウ						EN
51	ベンケイソウ科	ゲンカイイワレンゲ			VU			EN
52	タコノアシ科	タコノアシ			NT			NT
53	ヒメハギ科	ヒナノキンチャク			NT			CR
54	イラクサ科	ゲンカイヤブマオ						EN
55		ミヤコミズ						EN
56	カバノキ科	ハンノキ						EN
57	スミレ科	アケボノスミレ						CR
58	アマ科	マツバニンジン			CR			CR
59	オトギリソウ科	アゼオトギリ			EN			EN
60		ツキヌキオトギリ			VU			EN
61	ミソハギ科	ミズスギナ			CR		指定	CR
62	アオイ科	ハマボウ						NT
63	イソマツ科	ハマサジ			NT			NT
64	タデ科	ナガバノウナギツカミ			NT			VU
65		オオネバリタデ						VU
66		ネバリタデ						DD
67	ナデシコ科	オオヤマフスマ						EN
68		ウシオツメクサ						DD
69	アジサイ科	バイカウツギ						NT
70	リンドウ科	コケリンドウ						CR
71		イヌセンブリ			NT			EN
72	キョウチクトウ科	フナバラソウ			NT			VU
73	オオバコ科	マルバノサワトウガラシ			NT			CR
74		コキクモ			VU			CR
75		イヌノフグリ			NT			EN
76		カワヂシャ			NT			NT
77	シソ科	ミズトラノオ			VU			EN
78		コナミキ			VU			CR
79	タヌキモ科	ノタヌキモ			VU			EN
80		ミカワタヌキモ			EN			CR
81	キキョウ科	サワギキョウ						VU
82	ミツガシワ科	ガガブタ			NT			VU
83		アサザ			NT			EN
84	キク科	サワシロギク						CR
85		ダルマギク						NT
86		オケラ						EN
87		モリアザミ						CR
88		ヒゴタイ			VU			CR
89		ホソバオグルマ			VU			EN
90		ホソバニガナ			EN			EN
91		アキノハハコグサ			EN			DD
92		モウコタンポポ						EN
93		ウラギク			NT			EN
94	セリ科	ヤマゼリ						EN
合計	41 科	94 種	0 種	1 種	51 種	0 種	1 種	94 種

注：1．種の分類及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、令和5年）に従った。
　　2．重要な種の選定根拠は表 3.1-72に対応する。
　　3．「－」は、該当がないことを示す。

② 重要な群落

既存資料に記載されている群落について、表 3.1-72 に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から重要な群落を確認した結果、対象事業実施区域及びその周辺において重要な群落は確認されなかった。

③ 巨樹、巨木林

既存資料に記載されている巨樹、巨木林について、表 3.1-72 に示す選定根拠に基づき選定した。対象事業実施区域及びその周辺における巨樹、巨木林は、表 3.1-74 及び図 3.1-35 のとおりである。樹種としては、ハゼがある。

表 3.1-74　巨樹・巨木林

図中番号	樹種	幹周(cm)	樹高(m)	所在地
1	ハゼ	332	8	北九州市

注：図中番号は、図 3.1-35の番号に対応する。
「自然環境調査Web-GIS　Shape データ（巨樹、巨木林第6回)」
（環境省生物多様性センターHP、令和7年7月閲覧）　より作成

図 3.1-35 巨樹・巨木林の位置

3) 植物相の概要（海域）

対象事業実施区域の周辺の海域における文献その他の資料による海域の植物相の概要は、表 3.1-75 のとおりである。

表 3.1-75　海域の植物相の概要

項目	既存資料による主な出現種
海藻・海草類	エチゴカニノテ、ピリヒバ、ヒメテングサ、マクサ、カイノリ、ツノマタ、ワカメ、ヒジキ、タマハハキモク、マメタワラ、ボウアオノリ、スジアオノリ、シオグサ属、ミル等
植物プランクトン	*Thalassiosira* sp.、*Leptocylindrus danicus*、*Guinardia delicatula*、*Proboscia alata*、*Chaetoceros curvisetus*、*Chaetoceros socialis*、*Neodelphineis pelagica*、*Thalassionema nitzschioides* 等

注：1．種名は文献の記載及び日本産海藻目録（吉田忠生 等、藻類63(3)、平成27年）に従った。
　　2．「北九州港港湾計画資料（その2）－改訂－」には優占種の情報のみ掲載されているため、
　　確認種類数は表内に記載しない。
　　「北九州港港湾計画資料（その2）－改訂－」（北九州港港湾管理者・北九州市、令和5年）　より作成

① 重要な種（海域）

既存資料で対象事業実施区域の周辺の海域において確認された種について、表 3.1-77 に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から海域の植物の重要な種を確認した。

その結果を表 3.1-76 に示す。

今回文献調査で確認された重要種は、1 種確認された。

表 3.1-76　海域の植物の重要な種（海藻・海草類）

No.	分類	種	選定根拠					
			全 国				福岡県	
			①	②	③	④	⑤	⑥
1	緑色植物門	スジアオノリ	－	－	－	減傾	－	－

注：1．種名は文献の記載及び日本産海藻目録（吉田忠生 等、藻類・63(3)、平成27年）に従った。
　　2．重要な種の選定根拠は、表 3.1-77に対応する。
　　3．「－」は、該当がないことを示す。

② 干潟・藻場・さんご礁

対象事業実施区域の周辺の海域における藻場は、表 3.1-78 のとおりであり、分布状況は図 3.1-36 のとおりである。対象事業実施区域の北側に位置する関門海峡を隔てた山口県域にガラモ場等が分布している。

なお、対象事業実施区域の周辺の海域には干潟及びさんご礁は確認されていない。

表 3.1-77　海域の植物の重要な種の選定根拠及びランク

選定根拠			参考文献等
全国	①「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）	・「文化財保護法」（昭和25年法 ・律第214号）
	②「絶滅のおそれのある野生 動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際）	・「絶滅のおそれのある野生動植 ・物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
	③「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧IA類（CR） ・絶滅危惧IB類（EN） ・絶滅危惧II類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	・「環境省レッドリスト2020の公 ・表について」（環境省、令和2年）
	④「野生水生生物に関するデータブック」（水産庁編）に取り上げられているもの	・絶滅危惧種（危惧） ・危急種（危急） ・希少種（希少） ・減少種（減少） ・減少傾向（減傾） （「自然変動の範囲にあるもの（普通）は対象外とした。）	・「日本の希少な野生水生生物に ・関するデータブック」（水産庁、平成10年）
福岡県	⑤「福岡県文化財保護条例」により指定されているもの	・福岡県指定天然記念物（県天）	・「福岡県文化財保護条例」（昭和30年条例第25号） ・「福岡県の文化財」（福岡県HP、令和6年9月閲覧）
	⑥「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024－」に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧ＩＡ類（CR） ・絶滅危惧ＩＢ類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD）	・「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024－」（福岡県、令和7年）

表 3.1-78　対象事業実施区域の周辺の海域における藻場

図中番号	地　名	藻場のタイプ	現存藻場面積(ha)	優　占　種
1	馬島	ガラモ場	1	ヤツマタモク、ノコギリモク、クロメ
2	和合良島	アラメ場	4	ツルアラメ、オオバモク
3	六連島	ガラモ場、アラメ場	27	ホンダワラ類、アラメ
4	竹ノ子島	ガラモ場	19	ホンダワラ類
5	彦島大橋	ガラモ場	9	ホンダワラ類
6	福浦港	ガラモ場、アラメ場、ワカメ場、テングサ場	2	ワカメ、テングサ、アカモク、クロメ

注：1．図中番号は、図 3.1-36の番号に対応する。
　　2．現存藻場面積は、浅海域のみの面積である。

「自然環境調査Web-GIS」（環境省生物多様性センターウェブサイト、令和7年7月閲覧）　より作成

凡 例

対象事業実施区域

藻場

N

1:60,000

0 0.5 1 1.5 2 km

「自然環境調査 Web-GIS」(環境省生物多様性センターウェブサイト、令和7年7月閲覧)

より作成

図 3.1-36 藻場の位置

(3) 生態系の状況

1) 対象事業実施区域及びその周辺の自然環境の類型化

対象事業実施区域及びその周辺の自然環境について、植生図（図 3.1-34）の凡例から表 3.1-79 に示す 9 の環境類型に区分した。環境類型区分は、図 3.1-37 のとおりである。

表 3.1-79　環境類型区分一覧

図中番号	環境類型区分	植生の凡例
		対象事業実施区域の周辺
1	常緑広葉樹林	シイ・カシ二次林、タブノキーヤブニッケイ二次林
2	常緑広葉樹低木林	マサキートベラ群集
3	落葉広葉樹林	コナラ群落（Ⅶ）
4	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、クロマツ植林
5	竹林	竹林
6	草地	ススキ群団（Ⅶ）、チガヤーススキ 群落、ゴルフ場・芝地
7	耕作地	畑雑草群落
8	市街地等	路傍・空地雑草群落、市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地、自然裸地
9	開放水域	開放水域

注：図中番号は、図 3.1-37の番号に対応する。

図 3.1-37　環境類型区分図

2) 生態系の概要

対象事業実施区域及びその周辺の生態系について、動物及び植生の既存資料に基づいて整理した。

対象事業実施区域の周辺は、主に工場地帯、造成地が占めており、一部に路傍・空地雑草群落、ゴルフ場・芝地等の草地、シイ・カシ二次林等の樹林地が分布している。

このような場所には、下位の消費者であるアオイトトンボ、トノサマバッタ、モンキチョウ等の昆虫類、中位の消費者であるニホンアマガエル、ヌマガエル等の両生類、キジバト、ヒバリ、ホオジロ、セッカ等の鳥類、ハタネズミ等の小型哺乳類、上位の消費者であるシマヘビ等の爬虫類、タヌキ等の中型哺乳類及びサシバ、ノスリ、ハヤブサ等の猛禽類が生息し、食物連鎖を形成していると考えられる。

対象事業実施区域及びその周辺の食物連鎖模式図は、図 3.1-38 のとおりである。

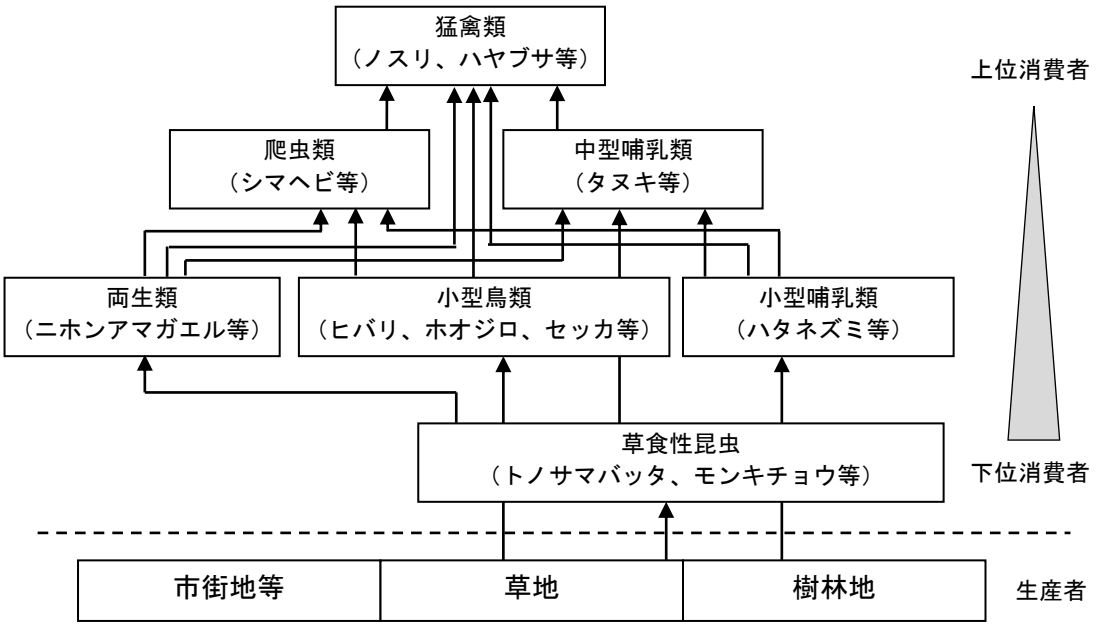

図 3.1-38　対象事業実施区域及びその周辺の食物連鎖模式図